

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, October, 2009

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

○10月の状況 (佐藤)

☆ 217P/LINEAR (写真 a)

217P/LINEAR がアウトバーストを起こした。10月15日 22:06、筆者から彗星課メーリングリスト (以下 oaa-comet ML) に「午前1時過ぎは空全体薄曇りでしたが、2時過ぎ頃から空がきれいに晴れ上がっていましたので、早速まだ観測していなかった 217P に 25cm 反射を向けました。えっ、こんなに明るいのかというのが第一印象で、先日自宅で観測した C/2006 W3 に比べると空の状態の良さはあるもののはるかに明るく見やすいものでした。最近の観測を見ると 10-11 等ぐらいと思っていましたが、かなり明るいには驚きました。…最近の 217P の画像を見ているとコマが例の逆三角形になっているようで気になっていました。まさか崩壊することはないでしょうね」とのコメントと眼視観測報告をした。

同日 23:15、宮城県大崎市の遊佐徹氏から oaa-comet ML に「217P はアウトバーストですね！さきほど、GRAS (NM, メイヒル) の 0.25-m f/3.4 reflector + ST10XME CCD (V-filter) で撮影しました。Hipparcos #27864 (Johnson V : 9.91 等, F5) と比較し、8等台と出て驚きました。コマ内の恒星の光量を除去して計り直しても、8.6 等です。コマ視直径は 5'.5 位置角 p. a. = 260 度に、幅の広い 16 分の長さの尾が広がっています」との報告があった。

16日 6:54、熊本県南小国町の宇都宮章吾氏から oaa-comet ML に「…今朝方、03 時過ぎには起きたのですが、霧の発生で透明度がいまひとつでした。眼視での光度観測です。オリオン座の M42 近くにいた頃は、10.2 等ほどでしたが、1 等級ほど明るくなり見やすくなっています。画像で見ると、ダストの尾が広がってきています。7cm 双眼鏡でも見えます」とのコメントと眼視観測報告があった。

更に同日 18:29、千葉県船橋市の張替憲氏も同 ML に「217P のバーストと聞き、快晴だったこともあり車で1時間の九十九里まで観測に行きまし

た。5 cm 双眼鏡では思いのほか見えず、モヤのかかった恒星状の姿が予報位置に確認できました。200mm で撮った以下の画像では西側に尾が見えます」とのコメントと眼視観測報告があった。

また、芸西天文台の関課長は 10 月 14.77 日 UT、70cm 反射×144 で全光度 8.5 等と眼視観測を行い、「先回報告した観測のイメージとは全く別物です。バドミントンの羽根のような尾？です」とコメントしている。

## ● 眼視観測報告

C/2006 W3 (Christensen) (写真 b)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Oct.	11.47	9.8	1.2'	4	-	-	2/5	3/5	66×25-cmL	佐藤裕久
	15.44	10.3	0.9	6/	-	-	3/5	-	79×30-cmL	永島和郎

C/2007 Q3 (Siding Spring)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer
Oct.	26.85	10.3	1'	8	-	-	4/5	4/5	144×70-cmL	関勉

217P/LINEAR

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Oct.	14.75	9.4	2.0'	3/	-	-	4/5	3/5	66×25-cmL	佐藤裕久	①
	14.77	8.5	2	8	-	-	4/5	3/5	144×70-cmL	関勉	②
	15.70	10.3	1.1	4	-	-	3/5	-	79×30-cmL	永島和郎	
	15.71	9.5	4	7	-	-	4/5	4/5	8×5-cmB	張替憲	③
	15.76	9.8	1.6	2/	-	-	2/5	2/5	66×25-cmL	佐藤裕久	
	15.80	9.2	2.5	5/	10'	-	2/5	2/5	25×15-cmB	宇都宮章吾	
	16.76	10.2	1.5	2	-	-	2/5	2/5	66×25-cmL	佐藤裕久	
	16.78	9.9	3.3	3	-	-	2/5	2/5	39×25-cmL	佐藤裕久	
	18.72	10.5	1.2	2	-	-	2/5	3/5	66×25-cmL	佐藤裕久	
	18.74	10.5	3	5	-	-	4/5	3/5	49×32-cmL	張替憲	④
	18.75	10.7	1.5	8	-	-	3/5	4/5	144×70-cmL	関勉	
	19.71	11.1	1.4	2	-	-	2/5	3/5	66×25-cmL	佐藤裕久	
	20.69	11.3	0.9	2	-	-	2/5	3/5	66×25-cmL	佐藤裕久	
	20.73	11.8	1	7	-	-	4/5	4/5	144×70-cmL	関勉	
	20.74	11.5	1.0	2	-	-	4/5	4/5	66×25-cmL	佐藤裕久	⑤
	21.72	11.9	1	7	-	-	4/5	3/5	144×70-cmL	関勉	

① p. a. 288°にコマが延びている ②バドミントンの羽根のような尾

③ 淡い恒星状 ④ 西に3'の尾あり ⑤179×併用

## ○その他 10 月に発見・検出された彗星

☆ C/2009 T1 (McNaught) 10 月 9.75 日 UT、R. H. McNaught は、Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た画像から 14" の拡散したコマと p. a. 145°に 0.6' の拡散した尾のある 17.8 等の彗星を発見した。NEO

Confirmation Page (NEOCP)に掲載後、A. C. Gilmore と P. M. Kilmartin (Mt. John 天文台, 1.0-m 反射)ら位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9080, 2009 Oct. 11)。

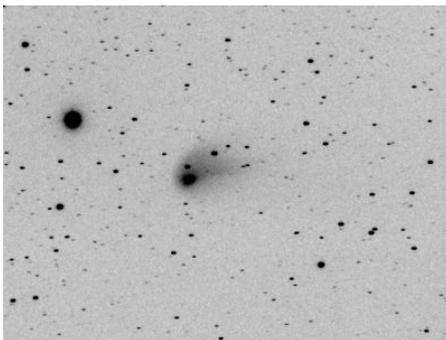
- ☆ P/2009 T2 (La Sagra)10月12.87日 UT、南スペインの Sagra 山にある “La Sagra Sky Survey” (LSSS) のコース上に、J. Nomen により得られた 0.45-m f/2.8 反射による画像から拡散した 17.0 等の彗星を発見した。小惑星センターの’NEOCP’ Web ページに掲載後、R. Miles (Stourton Caundle, Dorset 英国, 0.28-m f/9.4 Schmidt-Cassegrain 反射) は、p. a. 230°に25”の狭い尾で弱い彗星状と観測した (IAUC 9081, 2009 Oct. 12)。
- ☆ C/2009 T3 (LINEAR)10月14.43日 UT、LINEAR プロジェクトにより 19.3 等の小惑星状天体が発見された。NEOCP に掲載後、L. Buzzi (Varese, イタリア, 0.60-m 反射)ら位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9083, 2009 Oct. 15)。
- ☆ P/2009 SK<sub>280</sub> (Spacewatch-Hill)10月15.36日 UT、R. E. Hill (月惑星研究所:LPL)は、Mt. Lemmon サーベイの 1.5-m f/2 反射望遠鏡で得た CCD 画像から小さい核集光のコマ、p. a. 240°に 20”-30”の扇型の尾のある彗星を発見した。発見前の Spacewatch 観測が 9月17日、25日と29日、T. H. Bressi, J. V. Scotti と R. S. McMill によって行われ(全て外観は小惑星状であった)、小惑星センターで MPS 297945 に発行された 2009 SK<sub>280</sub> と連結され確認された (IAUC 9084, 2009 Oct. 21)。
- ☆ C/2009 U1 (Garradd) 10月17.71日 UT、G. J. Garradd は、Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た画像から 19.6 等の彗星を発見した。60 秒間露光を 5 つ重ねると 7”.4 のコマ (FWHM) と p. a. 160°方向に 45°の扇型の角度の微かな 30”に延びた扇型の尾があった (IAUC 9085, 2009 Oct. 21)。
- ☆ 228P/2001 YX<sub>127</sub> = 2009 U2 (LINEAR) 10月18.45日 UT、J. V. Scotti (月惑星研究所:LPL)は、Kitt Peak にある Spacewatch II の 1.8-m f/2.7 反射で得た画像から P/2001 YX<sub>127</sub> を検出した。20.9 等で、わずかに拡散し、同じく 19 日には短いが微かな尾があった。MPC 62881 の予報に対する修正値は Delta(T) = -0.36 day であった (IAUC 9085, 2009 Oct. 21)。
- ☆ C/2009 U3 (Hill)10月21.32日 UT、R. E. Hill は、Catalina の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で南西から北東に約 5”-7”の細長い核集光で約 12”-15”のコマと p. a. 300°に約 15”-20”の拡散した尾がある 17.6 等の彗星を発見した。NEOCP に掲載後、G. Sostero, E. Guido と P. Camilleri

(Skylive-Grove Creek 天文台, Trunkey 近郊, オーストラリア, 0.35-m f/7 反射の遠隔操作)や佐藤英貴氏(東京都大田区, Mayhill 近郊リモート 25-cm 反射使用)ら多数の CCD 位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9086, 2009 Oct. 22)。

☆ P/2009 U4 (McNaught)10月23.49日 UT、Robert H. McNaught (オーストラリア国立大学)は、Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た画像から弱から中ぐらいの集光で 30"のコマのある 16.8 等の彗星を発見した。McNaught はその後、22.46 日 UT に得た画像にもこの彗星を確認した。どちらかと言うと拡散状だが、C/2009 R1 を得た画像上にコマは p. a. 50°に明らかに伸びていた。そして、10月11.5日、G. J. Garradd が得た Uppsala Schmidt フレームには、この天体はまた非常に拡散状で、北東方向にコマが伸びているように見えた。小惑星センターの"NEOCP"に掲載後、C. Jacques と E. Pimentel (Belo Horizonte, Minas Gerais, ブラジル, 0.30-m 反射)や佐藤英貴氏(東京都大田区, Mayhill 近郊リモート 25-cm 反射使用)ら位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9087, 2009 Oct. 24)。

☆ C/2009 U5 (Grauer)10月23.46日 UT、A. D. Grauer は、Mt. Lemmon の 1.5-m 反射望遠鏡で得た CCD 画像から 19.4 等の彗星を発見した。大変集光した幅約 7"のコマと p. a. 280°に 20"の微かな尾がある。小惑星センターの"NEOCP"に掲載後、10月24.5日 UT と 25.4日 UT、E. V. Ryan と W. H. Ryan (Magdalena Ridge 天文台, New Mexico, 2.4-m f/8.9 反射)は、p. a. 約 270°に尾を見出した (IAUC 9088, 2009 Oct. 25)。

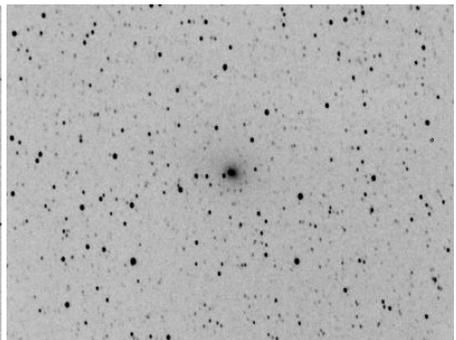
その他明るい彗星は、22P/Kopff, C/2008 P1 (Garradd), C/2009 O4 (Hill), C/2009 R1 (McNaught)等であった。



(写真 a) 217P/LINEAR 2009, 10, 16

1h20.0m-30.0m (JST) exp. 60s×7 TOA130+CCD

三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) C/2006 W3 (Christensen) 2009, 10, 19

20h20.0m-30.0m (JST) exp. 60s×7 TOA130+CCD

三重県伊賀市上野 田中利彦氏